

令和5年度第2回別所沼公園協議会・開催結果

1. 令和5年度 第2回別所沼公園協議会出席者

区分	団体名等
学識経験を有する者	町田誠(国土交通省PPPサポーター)/会長
本公園の利用団体の代表者	別所沼を守る会、100年別所沼、あそびの森、浦和別所沼公園ラジオ体操愛好会、一般社団法人 RUN DREAM 'S、ヒアシンズハウスの会、日本建築家協会関東甲信越支部埼玉地域会、株式会社エイト日本技術開発
本公園の近隣の自治会長	別所沼第三自治会、浦和仲町四丁目自治会
公園管理者	さいたま市都市公園課、南部公園整備課、(公財)さいたま市公園緑地協会
その他(傍聴者等)	さいたま北商工協同組合、日本工営株式会社

2. 主なご意見 (⇒公園管理者等の見解)

■ 別所沼の水質調査について

- ・自然環境分科会にも協力いただき、第一段階実験として、ポリ水槽を用いた過酸化水素のアオコ抑制効果を検証した。今回の実験結果を踏まえ、今後は第二段階実験として別所沼会館前の蓮池で、過酸化水素の効果を検証する予定である。
- ・過酸化水素だけでなくオゾンでも実験しないのか。
⇒有識者の助言や海外での実績が多かったため、過酸化水素を採用した。コスト的にも有利。
- ・アオコの抑制に効果がある過酸化水素の濃度はどのくらいか。
⇒分析中だが、4mg/L以上だと効果が期待できる。
- ・沼全体に過酸化水素を散布する場合、その攪拌方法が課題と考えるが現時点でよい方策はあるか。
⇒攪拌方法は最大の課題である。別所沼の噴水を活用することを考えたが薬剤がすぐに揮発することが危惧される。蓮池での第二段階実験では複数地点から散布する。
- ・過酸化水素の散布だけでなく、「かいぼり」などの取組が必要ではないか。
⇒アオコの種を減らすためには「かいぼり」が効果的だが、数年しか効果が持続しない。効果が持続する手法を用いることが重要である。
- ・肌感覚だが、今年の沼の状況は過去一番ひどい。濁りや蚊が多い。毎年の水質データを蓄積することで、対策の糸口が見つかるかもしれない。

令和5年度第2回別所沼公園協議会・開催結果

■ 自然環境分科会の活動報告について

- ・水質改善について、分科会で取り組んだことに価値がある。実験結果の確認が楽しみ。
- ・落ち葉拾い・泥土集め・焼き芋イベントについて改めて目的の共有を図りたい。

■ 利用環境分科会の活動報告について

- ・別所沼公園内の看板は314件と想像よりも多くあった。これらを整理し最小限にしていけるとよい。
- ・協議会で作成する看板はだれが設置するのか。看板はデリケートで高さや角度など細かい調整が必要となる。
⇒協議会のメンバーが現地で話し合いながら調整・設置することを想定している。
- ・今後のスケジュールにある「ルール確認」は、看板に記載するルールを決めていくという認識でよいか。
⇒問題ない。
- ・自転車ルートについては当面通行を許容するルートを検討していく。ランドデザインでは正規ルートの検討もお願いしたい。
⇒検討する。

■ ホームページの内容・レイアウトについて

- ・サブタイトル案が協議会メンバーから4件挙がった。どれかを選択するのではなく、全てを盛り込んだ案を次回協議会で示してほしい。
⇒検討する。
- ・公園利用者は健康づくりに取り組んでいる人が多いため「健康」がにじみ出るようなサブタイトルをお願いしたい。
⇒検討する。

■ その他

- ・協議会メンバーの集合写真を撮影した。

